HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	米国大使館助成プログラム「日米外交アカデミー」
Author(s)	小濵, 祥子
Citation	年報 公共政策学, 19, 277-278
Issue Date	2025-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/95423
Type	other
File Information	19-25_Report_Kohama.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

米国大使館助成プログラム
「日米外交アカデミー」

1. 趣旨

2024年９月17日(火)から21日(土)の５日間にわたり「日米外交アカデミー」を開催した。本アカデミーは、日本の外交・安全保障上の課題に対処できる将来のリーダーを北日本在住大学生から養成するために米国国務省・米国大使館・在札幌米国総領事館の提供する助成プログラムの支援を受け、米国テネシー大学ベーカースクールと公共政策大学院（以下、HOPS）が共同で開催したものである。ベーカースクールの講師２名と本学の講師5名がメンターとなり、本学および近隣他大学に所属する学部生・大学院生23名が、東アジアの安全保障や日米同盟についての双方向型の授業、戦略的コミュニケーションや政策ブリーフィング・ペーパーの書き方講座、自衛隊基地や在札幌米国総領事館での研修、国際危機シミュレーション・ゲームに参加した。なお本アカデミーは英語で開催された。

2. 概要

１日目は開会式にてジェフ・フリーマン米国広報文化担当領事、山崎幹根HOPS院長、そしてベーカースクール外交安全保障センター長のクリスタ・ウィーガンド教授からの挨拶があった。続いてウィーガンド教授の「パワーポリティクスの戦略的重要性」、土井翔平准教授（HOPS）の「日米同盟の重要性」、小濵祥子准教授（HOPS）の「国際関係における外交と交渉」、エリス・ヴラーシ講師（ベーカースクール上級研究員）の「日米同盟に対するハイブリッド戦の脅威」についての講義が行われた。参加学生は英語で積極的に質問し、国際関係や安全保障に関する基礎知識を身に付けた。

２日目はウィーガンド教授とヴラーシ講師から戦略的コミュニケーションや政策ブリーフィング・ペーパーの書き方についてのレクチャーを受けた。

３日目は外交・安全保障の実務の現場にて研修を行った。まず陸上自衛隊真駒内駐屯地を訪問し、北部方面総監部防衛課長の松下卓也一佐より日本を取り巻く安全保障環境や自衛隊の果たしている役割および直面している課題について、在日米国陸軍連絡将校のアレックス・ユー少佐より日米同盟とその課題について、それぞれ講話があった。また駐屯地内の食堂で喫食体験に参加し、自衛隊員の方々と意見交換を行った。

その後、在札幌米国総領事館を訪問し、マーク・ウェベルス米国総領事、フリーマン領事、マシュー・ハフナー経済担当領事から日米関係や外交官の仕事についてのレクチャーを受けた。いずれの研修においても講師の方々と参加学生の間で活発な質疑応答と意見交換が行われた。

４日目および５日目は東アジアにおける国際危機のシナリオを用いた外交シミュレーション・ゲームが行われた。参加学生は池直美教授（HOPS）、佐々田博教教授（メディア・コミュニケーション研究院）、ウィーガンド教授、ヴラーシ講師、小濵准教授らメンターの指導の下、５班にわかれてシナリオの分析と政策分析を行い、首相に対するアドバイザーの立場から政策ブリ

ーフィング・ペーパーの執筆および最終プレゼンテーションを行った。

本アカデミーへの参加を通じ、参加学生は日本の直面している安全保障問題や日米同盟の重要性についての理解を深め、政策立案能力や戦略的コミュニケーション能力を高めることができたものと考えている。

文責：小濵祥子（北海道大学公共政策大学院准教授）